

(3) 各活動・取組に関する詳細 ※記載必須

各活動・取組に関する詳細	
* 各取組内容を詳細に記載ください。なお、取組については現時点の達成度に限らず、将来的な展望や今後目指す展開についても必ず記入してください。	
取組 1	取組の詳細 環境に配慮した魅力的な観光コンテンツを開発し、沖縄の豊かな自然を次世代へ残しつつ、関係人口を増やしながら持続可能な観光の形成に貢献する。
	取組において、現時点で実施／決定していること やんばるの森ネイチャーガイドツアーの実施 https://www.japawalk.com/campaign/yambaru_kugani.html
	取組において、今後予定していること これまで補助金等を活用して実施してきたモニターツアー（エシカルツアー、サイクルツアーなど）の結果を参考にした新たなコンテンツ開発。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法 新たなコンテンツ開発に向けて社内検討を進める。KGIから落とし込んだ数値として、目標値を検討した。サステナブルの定義としては、環境保全（CO2削減）につながるものを重視している。加えて、持続的な観光も重要な柱として考えている。
	取組を推進する体制 JALグループが持つリソースを活用しながら、これまで実施してきたモニターツアー（エシカルツアー、サイクルツアーなど）のコネクションにより、体制を構築する。沖縄県内の旅行会社、ツアーガイド、自治体などと連携しており、観光協会などとの連携も検討している。
取組 2	取組の詳細 これまでに実施してきた世界自然遺産推進共同企業体の活動やサンゴ再生支援協議会の活動の発展。
	取組において、現時点で実施／決定していること 世界自然遺産推進共同企業体：各地でのビーチクリーン活動、世界自然遺産沖縄基金の設立、普及啓発活動、環境保全・保護活動など サンゴ再生支援協議会：石垣、久米島でのサンゴ有性生殖の実施
	取組において、今後予定していること 世界自然遺産推進共同企業体として、やんばる3村、奄美の企業体との意見交換を実施し、現状の課題をブラッシュアップし、さらなる環境保全・保護等の取り組みにつなげる。 サンゴ再生支援の継続的な実施
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法 新たな取り組みに向けて社内、関係機関、各企業・団体と検討を進める。KGIから落とし込んだ数値として、目標値を検討した。現状の2件については、「世界自然遺産推進共同企業体」と「サンゴ再生支援協議会」である。今後は、現在の活動を分岐させて広げていく。「世界自然遺産推進共同企業体」と「サンゴ再生支援協議会」の中では複数の取り組みを行っているが、新たな取り組み施策を弊社主導で展開する。
	取組を推進する体制 企業体、協議会のリソースの有効活用により、各種部会などの設置を検討していく。「世界自然遺産推進共同企業体」と「サンゴ再生支援協議会」においては、企業体/協議会での意思決定をしているが、JTAが代表企業・幹事企業としてそれぞれを取り纏めている。
取組 3	取組の詳細 航空機の運航により排出されるCO2の削減に取り組み、2050年までにCO2排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルを実現する。
	取組において、現時点で実施／決定していること 機材更新による燃費改善、運航方式の工夫によるCO2削減。
	取組において、今後予定していること カーボンオフセットの導入やSAFの活用検討のほか、燃料効率の良い機材への更新、太陽光パネルの設置などを検討中。
	KPIにする指標の設定理由、目標値の妥当性、指標の計測方法 CO2の削減には確実に取り組むため短・中・長期での取り組みを検討中。KGIから落とし込んだ数値として、目標値を検討した。CO ₂ 排出量は弊社の航空燃料使用量から算出しており、燃料消費→CO2排出量換算の式は以下の公的資料を用いている。 (https://www.env.go.jp/policy/local_keikaku/data/guideline.pdf#page=21 , https://www.env.go.jp/council/16pol-ear/y164-04/mat04.pdf)
	取組を推進する体制 JALグループ各社との連携に加え、クレジット発行に精通する企業や団体、SAFを製造するメーカー等と連携し、取り組みに応じた体制を構築する。